

1. 次の英文を和訳せよ。

The authors define "public debt overhang episodes" as periods when public debt-to-GDP ratios exceeded 90 percent for more than five years. (中略) Ongoing debt overhangs in Greece, Italy, and Japan started before the financial crisis, have already cleared the five-year mark, and are included.

The authors find that on average, debt levels above 90 percent are associated with growth that is 1.2 percent lower than in other periods (2.3 percent versus 3.5 percent). Importantly, 20 of the 26 episodes lasted more than a decade, and the average duration of debt overhang episodes in the sample is 23 years. The authors explain that the consequences of this long duration are two-fold. First, it suggests that the association of debt and growth is not just a cyclical phenomenon, which contradicts the view that the correlation is caused mainly by debt buildups during recessions. Second, it implies that the cumulative shortfall in output from debt overhang is potentially large.

※注：debt overhang: 過剰債務

(Carmen Reinhart, Vincent Reinhart, and Kenneth Rogoff, 2012, "Debt Overhangs: Past and Present," *NBER Working Paper* No. 18015, introduced by Claire Brunel in *the NBER Digest* August 2012, pp.2-3.)

2. ある閉鎖経済（輸出入がない経済）において、消費関数が

$$C=210+0.8(Y-T)$$

ただし、C: 実質民間最終消費支出、Y: 実質 GDP、T: 租税（収入）

と表され、投資関数が、

$$I=5-0.4r$$

ただし、I: 実質投資（固定資本形成）、r: 利率（単位：%）

と表され、貨幣需要関数が

$$L=Y-2r$$

ただし、L: 実質貨幣需要

と表されるとする。また、中央銀行は、名目貨幣供給を（ちょうど貨幣需要と等しくなるように）635 だけ行なったとする。物価水準は1とする。このとき、下記の(1)~(6)について答えよ。

※注意：答案用紙には、途中の計算過程も残しておくこと（きれいに書いていなくてもよい）。正解と異なっていた場合には、計算過程の内容が重要になる。解答は、整数でなくてよいが、分数の場合はできるだけ既約分数で答えること。

(1) 実質政府支出（G）を含む IS 曲線と LM 曲線の式を、「 $r=\dots$ 」の形になるようにそれぞれ示せ（式を導出するだけでよく、図示は不要）。

(2) 政府が租税を、

$$T=5+Y/4$$

となるように課し、実質政府支出 G を 46 とするように財政運営を行なったとする。このとき、マクロ経済において実現する均衡での実質 GDP と利率の水準はいくらになるかを

答えよ。

(3) いま、実質政府支出  $G$  を 49 に増やしたとする。その際、増加分 ( $49 - 46 = 3$ ) の財源を一旦全て市中消化による公債で賄ったとする。このとき、マクロ経済において実現する均衡での実質 GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

(4) (3)と同様に、実質政府支出  $G$  を 49 に増やしたときの増加分の財源を、一旦全て中央銀行による公債引受けで賄ったとする。このとき、マクロ経済において実現する均衡での実質 GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

(5) (4)のとき、(2)と比べて、マクロ経済では何が起きているか。また IS-LM 分析で表しきれないところで何が起きていると考えられるかを答えよ。

(6) (2)の状態から、名目貨幣供給は 635、実質政府支出  $G$  は 46 のままで、租税を

$$T = 2 + Y/4$$

となるように課して、3 だけ減税したとする。このとき、マクロ経済において実現する均衡での実質 GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

3. 次のミクロ経済学に関する①～④の記述について、正しい場合は○、間違っている場合には×をつけて答えよ。また、誤っている×の記述について、その理由を簡単に答えよ。

- ① 限界効用逓減の法則が成り立つ効用関数において、1つの財についてある消費水準から追加的に1単位増えるときの効用の変化分は、追加的に1単位減るときの効用の変化分（絶対値）よりも小さい。
- ② 独占企業が供給する財の市場において、需要の価格弾力性が1よりも大きいとき、独占企業の限界収入はマイナスとなる。
- ③ 縦軸を価格、横軸を数量とした図において、需要曲線が右上がり（価格と数量が正の相関関係）になることはない。
- ④ 第1財と第2財の2財のみを消費して効用を得る家計において、第1財価格のみが上昇した場合に生じる所得効果と代替効果のうち、所得効果より代替効果の方が大きいとき、第2財の消費量は減る。

4. <この問題は、時間に余裕がある場合に限り解答してもよい；解答しないからといって減点にはしない>

次のマクロ経済学やミクロ経済学に関する(1)～(4)の問いについて答えよ。

- (1) トービンの  $q$  とは何か、定義を説明するとともに、その値がどのようになれば投資が増えるか、その理由も説明せよ。
- (2) 独占企業が財を供給すると、死荷重（超過負担）が発生するのはなぜか、その理由を答えよ（図を用いて説明してもよい）。
- (3) 流動性の罫に直面するとき、貨幣需要の利子弾力性はいくらになっているか答えよ。
- (4) 通常の生産費用の構造において、限界費用が減少する局面では平均費用も減少するのはなぜか、その理由を答えよ。